

vol. 2316

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立
日教組第73次教育研究全国集会大会
- 姫島はおもしろい!
—大分工業分会レクリエーション報告—

平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立 日教組第73次教育研究全国集会大会

と き：2024年1月26日(金)～28日(日)

と ころ：北海道

日教組の第73次教育研究全国集会が開催され、全国からのべ8,000人が参加しました。第69次(20年1月開催)から4年ぶりの対面での開催です。実践の交流と様々な教育課題に関する議論が3日間にわたって行われました。大分高教組からはリポーター5人、司会者1人、一般参加者(青年層)1人、本部2人の計9人で参加しました。



集会開催に先立ち1月1日に発生した「能登半島地震」で犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、黙とうを行いました。

主催者を代表し瀧本司日教組中央執行委員長があいさつし、はじめに、能登半島地震で被災された方々へのお悔やみとお見舞、そして一日も早い復旧をお祈りする旨を話し、被災地域の学校の状況と子どもたちの心身の影響等が懸念されること、日教組は全国連帯で教育復興支援活動にとりくんでいくと述べました。次に、全国で教職員不足となっており子どもへの影響が深刻であること、また、文科省調査では精神疾患で休職した教員数が過去最多となったことから学校現場の勤務環境が一層厳しくなっている状況を述べ、日教組「持続可能な学校のための7つの提言」のも

と、勤務環境が改善されたと教職員が実感できるよう、「給特法の廃止・抜本的見直し」を求めるとともに、教職員定数増、大胆な業務削減による、さらなる学校における働き方改革の前進を求めていきたいと述べました。続いて、こども基本法に基づく「こども大綱」における目標事項の、「こども政策に関して自身の意見が聴いてもらえている」ことは学校教育も含まれることから、これまで日教組が掲げてきた子どもの権利条約の理念の実現にむけ、改めて子どもの権利条約を確認し合い、教育活動・教育実践につなげていこう、と述べました。そののち、世界で紛争や迫害が続いており、日本においても憲法、教育の危機である。だからこそ「平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立」のため、教育研究活動の歴史と成果を学び継承していくことの重要性について述べました。最後に、4年ぶりの対面開催となる本集会で子どもの学びや教育のありようについて社会的対話をすすめながら、子どもを中心にすえた教育研究・教育実践をより一層充実・発展させていこう、としました。

また、能登半島地震で大きな被害のあった石川県の状況について石川県教職員組合谷内直執行委員長からご報告をいただきました。

記念講演は、東ちづるさんによる「Let'sまぜこぜ～浅く広くゆるくつながる

う～」でした。(要旨後掲)
全体集会終了後、24の分科会にわかれ、495本の教育実

践りレポートについて、同研究者とともに討議を深め、最
終日には、それぞれの分科会での総括討論を行いました。

記念講演 (概要)

「Let'sまぜこぜ ～浅く広くゆるくつながろう～」

東 ちづる さん

社会活動、いわゆるボランティア活動を32年前からスタートさせ、2012年には、誰も排除しない「まぜこぜの社会」をめざして、アートや音楽、映像、舞台などのエンタメを通じて、すでに私たちはともに生きているということを可視化、体現化できる活動をする「一般社団法人Get in touch」を立ち上げました。学校には多様性を尊重するためにできることがたくさんあります。例えば、弊団体では全国の小中学校、高校に授業で活用できる、LGBTQを知るための映像『自分が自分らしく生きるために』を作成し、無料配布しています。ぜひ、この映像を活用し、いのちを大切に基本的人権を尊重するために何ができるのかを、子どもはもちろん、保護者・地域のみなさんとも一緒に話し合ってください。また、多様性社会は全ての人が居心地いいということに気づくために、私がかがけた2020東京オリパラの公式映像『MAZEKOZE アイランドツアー』も子どもたちにも視聴してもらいたいです。これからも、何ができるかを皆さんとつながりながら、アクションしていけると嬉しいです。ありがとうございました。

俳優。一般社団法人Get in touch代表。プライベートでは骨髄バンクやドイツ平和村、障がい者アート等のボランティアを30年続けている。2012年、アートや音楽、映像、舞台等を通じて、誰も排除しない、誰もが自分らしく生きられる「まぜこぜの社会」を目指す、一般社団法人「Get it touch」を設立し、代表として活動中。自身が企画・インタビュー・プロデュースの記録映画「私はワタシ～over the rainbow～」が順次上映。現在は、配信サイトVimeoにて「まぜこぜ一座『月夜のからくりハウス』」と共に配信中。『東京2020NIPPONフェスティバル』のひとつとして世界に配信されている「MAZEKOZEアイランドツアー」の企画・構成・キャスティング・演出・衣装デザイン・総指揮を担当。

☆目教組第73次全国教研 大分高教組レポート発表者☆

| 分科会名 | リポーター (分会名) | レポートタイトル |
|----------------|---------------|--|
| 音楽教育 | 稲田 雅史 (別府鶴見丘) | 生き続けるための力を育てる音楽科教育とは ～音のデザインを取り入れた授業～ |
| 技術・職業教育 | 佐藤新太郎 (大分工業) | 人の役に立つものづくりで育つ工業の専門性と市民性 — 通学路の夜道を再生可能エネルギーで照らす取り組み — |
| 自治的諸活動と生活指導 | 佐枝 佑哉 (大分工業) | 学級経営における多様性の考慮と効果的な取り組み方 |
| 高等教育・進路保障と労働教育 | 中野 幸弘 (中津北) | 高校の3年間 |
| 教育条件整備の運動 | 畑野 新司 (中津北) | 校内情報担当者として思うこと — ICT教育支援員の常駐化を — |

日教組第73次教育研究全国集会に参加して ～全国教研還流報告～

音楽教育

「小・中と連携を！

レポート発表で高校音楽をアピールしよう」

リポーター・稲田 雅史 (別府鶴見丘)

私は、昨年度、教育研究会全国集会音楽教育分会で初めて司会者の役につき、事前打ち合わせに参加した。その際

感じたこと(驚き)は、高校のレポート発表が全くないということである。高校は一般的には最後の音楽の授業が学べる場である。つまり、音楽教育の出口として今後生涯にわたり音楽にどのようにかかわっていけばよいかを学ぶ場でなければ

ならない。そしてこの考え方についての理解は高校の教員のみならず、小中学校の音楽にかかわる教員にも必要ではないかと考える。そこで、教育研究会全国集会音楽教育分会であれば高校現場の声を伝えることができるのではないかと考え、レポート発表をさせていただくこととなった。

分科会においては、音楽の能力向上より生き生きとした児童生徒の活動ができた実践報告が好印象を持たれる傾向にあったため、私発表のように教科を強く意識した内容の発表はあまり経験がなく驚きがあったように感じている。この発表がよかったかどうかはまだわからないが、来年度再来年度と発表し続けることで、確実に高校音楽に成果が表れると信じている。今回発表させていただき感謝しています。

技術・職業教育

「教研は財産。もっとPRを！」

リポーター・佐藤新太郎 (大分工業)

職業・技術教育分科会において「工業高校はまだPRが足りていないのではないか？」と言う話になった。中学校の先生も工業高校を知らないことが多いようだ。いまだに Yankee がいると思っている先生も少なからず存在するらしい。

しかしそれも無理はない。中学校の先生方は、普通科高校から大学に進学。そして教員の免許を取得して中学の先生になるのだから。

あえて言う。技術教育はおもしろい。身近な課題解決という目標は明確である。それを達成するための努力は自分自身を変化させてくれる。それが成長につながる。偏差値輪切りの劣等感を持たされ、勉強嫌いになってしまった子どもたちを癒してくれよう。

もちろんそれを施す教員もおもしろい。ものづくりを通して子どもたちの成長を間近に見ることができる。今流行りの「探究」と同じでこの仕事も追及すればするほど「新たな問い」が出現してくれる。

こういったことを教えてくれた「教育研究集会」は教員系組合にのみ存在するという。この財産は大事にし、そしてもっとPRすべきだ。

インクルーシブ教育

「インクルーシブ教育分科会に参加して」

一般参加・河野 淳平 (新生支援)

全国教研に初めて参加させていただきました。私は特別支援学校で勤務をしているため、今回はインクルーシブ教育の分科会に参加しましたが、改めてインクルーシブ教育について理解できました。私は今まで障がいをもつ方がど

のようにすれば周囲に適応できるかを考えていました。しかし、周囲がどうすれば障がいをもつ方に配慮すればよいかを考えることが重要であることを再認識することができました。これまで「できない」を「できる」ようになってかしらうと思っていました。しかし、「できなくてもよい」と考えたり、「できている」ことに目を向けると考えを変えたりすることができました。学校現場でも生かしていきたいです。

自治的諸活動と生活指導

「多様性をもつ生徒と工業系高校」

リポーター・佐枝 佑哉 (大分工業)

今回、全国教研「自治的諸活動と生活指導」分科会にて「学級経営における多様性の考慮と効果的な取り組み方」の報告を行った。他校からの参加は小・中、高（普通科）であったため、工業高校における特性をもった生徒の配慮の話に興味をもって聞いていただいた。たくさんの校種のうち合理的配慮への理解が浸透していることが当然の教育現場であるが、工業高校における配慮の必要な生徒への理解や手帳を持った生徒への理解はまだ多くの課題が残っていると考えている。特に手帳を持った生徒が工業系の高校に在籍するケースは極めて少なく、それは安全への配慮やものづくりを通じた問題解決に関して学習への困難さを感じるからであろう。また工業科の教員側の理解が乏しい場合が多く、生徒・教員の双方に通ずる課題を解決していくことが必要不可欠である。貴重な意見を聞けたことに大きな感謝を抱くと共に今の自分が取り組むべきことが具体化した集会であった。

高等教育・進路保障と労働教育

「学びの時間」

リポーター・中野 幸弘 (中津北)

私は昨年までの3年間をまとめた「高校の3年間」というレポートで参加し、第20分科会の「高校教育・進路保障と労働教育」で報告しました。レポートは全部で20本あり、北海道から鹿児島まで、小学校から高校までと様々な立場の人の発表がありました。私のレポートで話題になったのは、「定員内不合格」の問題でした。公立の高校という位置を考えれば、どうして不合格を出すんだと言われて

もしかたがありません。各学校の実情については、参加者の多くが知っていますが、私は何かを発言しなければと2日間考え、討論の時間に以下のことを伝えました。髪は茶色で化粧は濃い生徒に「おまえは卒業しなければいけない」と言い続けた生徒がいましたが、定員内不合格になった生徒は点数だけで顔は見えていません。その生徒は障がいをもっていたかも、不登校だったかもしれません。様々なことを抱えながら、受験をしたことへの想像が至っていなかったなあと。昼も夜も学びの4日間でした。

教育条件整備の運動

「第73次教育研究全国集会に参加して」

リポーター・畑野 新司 (中津北)

私は第23分科会「教育条件整備の運動」に参加しました。

この分会会では大きく3つの柱(学校の働き方改革と業務改善・子どものより良い学校環境のための条件整備と予算要望・学校事務と

事務職員のあり方)に沿って熱のこもった討議が行われました。

この分科会への参加は初めてということもあり、自分の知らなかったことを多く学ぶことができました。特に印象に残った言葉は「公会計化」「夜間中学」「土曜授業」でした。事務職員の報告者は義務制が中心でしたが、各学校での取組実践を丁寧に伝えてくれたおかげで全く場違いの私も多

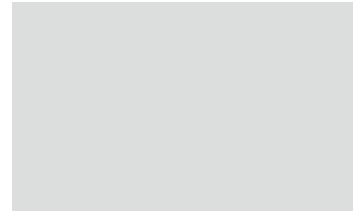
くのことを知る機会となりました。改めて義務制と高校の事務室の勤務体制の違いに気づくことができました。特に、授業を見学して教室の環境を少しでも良くしたい、学習指導要領を読んで事務職員の立場から授業づくりに関わっているという発言に心を動かされました。

また、夜間中学の設置状況の実態についての報告があり、令和5年4月時点で、23都道府県・指定都市に44校が設置されている学校数が今、増加している実態を知りました。残念ながら大分県には夜間中学は設置されていません。夜間中学は「あってはならない学校」だけ「なくてはならない学校」であるという報告者の言葉が印象に残っています。

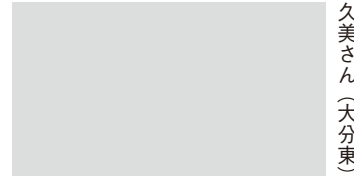
校種も職種も違う中でしたが、3日間多くのことを学ぶことができました。コロナ禍で暫らくはオンライン実施が続いていたようですが、改めて対面での討議で参加者同士の熱を感じる3日間の全国集会に参加できてよかったと感じました。



雪二モ負ケズ、全国から集結。実践交流で研鑽を深めました。



アイヌ民族の文化・歴史が紹介されました



音楽教育分科会で司会を務めた萩本久美さん(大分東)

姫島はおもしろい!

—大分工業分会レクリエーション報告—

ちょうど5年前の新春、本校は姫島ツアーを実施した。これは他ならぬ、大分工業分会を長い間支えてきてくださった本校土木科教員の小笹修広先生の存在があったからだ。小笹先生のご実家がなんとこの「姫島」。本校OBの小笹先生であるが、高校進学を機に姫島を離れるまで、この地で育ったというのである。だから、島の隅々まで知っている「名ガイドさん」として活躍して下さるわけであるから、大変ありがたいことです。おかげで、護岸整備による環境汚染の実態やB29から空襲された姫島灯台等、裏情報をたくさん知ることができました。

今回の訪問は3回目。昨年も分会の仲間で開催した。今回は少し違う。他分会からの参加があった。実は、秋の県教研で「姫島はおもしろい!」と私が発表をしたら、「私

たちもいきたい!」と別府翔青高校の友人組合員も参加することとなったのである。これも組合ネットワークのなせるわざ。

そして、離島という開放感の中、温泉+海老=天国への方程式。参加者から「ここで『フェスタ』をやったら盛り上がるのでは!? 観光地をスタンプラリーで回ったら!」という提案も飛び出すほどでした。姫島村の「海老しゃぶフェア」は3月31日まで続く。ぜひ皆さんも参加してほしい。

佐藤新太郎 (大分工業)